



地域で見守り! 青パト出動

10月18日、市役所玄関前で「別府1丁目・5丁目防犯会 青色防犯パトロール車第1号出発式」が行われました。地域でのパトロールを強化することで、地域の皆さんの防犯に対する更なる意識向上などが期待されます。



みんな精一杯頑張りました

11月1日、奈良中学校体育館で奈良中・中条中合同の「秋桜コンサート」が開催されました。この日のために練習を積んできた生徒達の太鼓や歌舞伎などの演目に生徒や父兄の皆さんは魅了されました。



笑顔がいっぱい くまSUNフェスタ

11月5日、熊谷スポーツ文化公園くまがやドーム内体育館で、熊谷市子育て支援拠点合同イベント「第5回くまSUNフェスタ」が開催されました。歌に合わせて手拍子やダンスをしたり、様々なコーナーで遊ぶ子どもたちの笑顔が光っていました。



幻想的な星川散歩 スターネーション

11月4日、Star-nationが開催され、星川周辺が幻想的な光でつまれました。当日は、LEDライトの「いのり星」の放流の他、イルミネーションの点灯式が行われました。イルミネーションは、来年1月13日まで楽しめます。



厚生労働大臣表彰受賞を報告

11月7日、高田澄枝さんが受賞の報告のため、市長を表敬訪問しました。永年、乳・幼児保育事業に従事し、地域社会や保護者とともに支え合える子育てを行ってきたことなどの功績により受賞しました。



今年も魅せた! 熱い踊り

11月4日、「第12回オ・ドーレなおおね」がコミュニティひろばや国道17号で開催されました。ダンスパフォーマンスには、市内外から多くのダンスチームが参加し、熊谷の秋を熱く盛り上げました。



「木曾義仲・巴御前」大河ドラマ化に向けて!

11月9日、文化センター文化会館で「義仲・巴スペシャルトーク埼玉いざ、出陣!」が開催されました。斎藤別当実盛が「義仲、ゆかりのある埼玉、富山、長野、石川の各県にまたがる35自治体が集い、トークショーや観光PRなどを行い、盛況のうちに終了しました。



金メダリストの演技を体験!

10月31日、熊谷東小学校でアテネ五輪体操金メダリストの鹿島文博さんが講演会と体操の実技指導を行いました。現役時代の得意種目であるあん馬を披露し、子ども達から歓声が響き渡りました。



熊谷市スポーツ・文化村愛称受賞者表彰式

10月1日、市長が受賞者に表彰状と記念品を贈呈しました。最優秀賞として決定したのは、権田あけみさんの「くまびあ」で、優秀作品として青山茂男さんの「スポ・カル・ビレッジ」、斉藤重利さんの「スポカル」が選ばれました。



暑さ対策事業が『行政トップランナー特別賞』を受賞

環境省をはじめ、全国2,888の企業、行政、民間団体が組織される、熱中症予防を推進する運動「熱中症声かけプロジェクト」において、合計302の取組みの中から、本市の暑さ対策事業が最も優秀であると認められ、『行政トップランナー特別賞』を受賞しました。昨年に引き続き2年連続の受賞となります。



大きな声援! 笑顔でゴール

11月3日、「2013彩の国実業団駅伝」が開催されました。市内のコース上やゴール地点の熊谷スポーツ文化公園には大勢の観客が訪れ、ランナー達に大きな声援を送りました。

おたよりパレット

市報クイズ10月号で寄せられたご意見を紹介します。

テーマ
おしえてください! 熊谷方言(訛り)

今まで当たり前のように使い続けてきた言葉が、熊谷の方言だったと、他の地域の出身者に指摘されて初めてわかったという人もいました。「～なん?」はついつい出てしまう熊谷弁ですね。おたよりパレットは、市ホームページ <http://www.city.kumagaya.lg.jp/> でも、更に詳しく紹介しています。

- 「てえー! そうなん!」相手の話に対してのこちらの返事みたいなものですが、子どもが高校生の時に、面白いとみんなに言われ、相づちを打つ度に笑われたと言っていたのを思い出しました。(60代・女性)
- 上尾市の会社に勤務していた時に、「～そうですね」という事を無意識に「～そうだんべ」と言って、仲間から「熊谷弁が出たぞ」と指摘された事が数回ありました。(70代・男性)
- 結婚する前、熊谷育ちの主人の「～するん?」「そうなーん」という言い方に、「なんて優しい言葉!」と惚れて熊谷に嫁いできました。そしたら周りの人が同じ言葉遣いでびっくりしました(笑)。(40代・女性)
- 人に頼み事をする際、「～してくんない?」と言います。(40代・女性)
- 「つぐむ」は、しゃがむということだとおばあちゃんに聞きました。(小学生・女子)

今月のテーマ、「冬の寒さ対策・あたたかグッズ」にいただいたコメントは、「おたよりパレット」や市ホームページで紹介させていただく場合があります。

応募方法 ハガキまたはEメールに、クイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・今月のテーマ「冬の寒さ対策・あたたかグッズ」のコメントを必ず記入し、12月19日(木)までにご応募ください(一人につき一通)。 ※コメントがないものは無効となります。 《応募先》〒360-8601 宮町二丁目47番地1 熊谷市広報広聴課 ☐ kohokocho@city.kumagaya.lg.jp ※なお、市内の商店・企業を知っていただくという趣旨で、当選者にはプレゼント引換券をお送りしますので、お店でご使用ください。当選者の発表は、プレゼント引換券の発送をもって代えさせていただきます。	今月の問題 次の□に入ることばを、それぞれお答えください。 ①12月は地球□防止月間です。 ②平成25年熊谷市交通安全スローガンは、「大丈夫□判断 事故のもと」です。
11月号の正解 ①うどん ②太陽光 ◆応募総数53通中、正解49通	今月のプレゼント 埼玉製菓ご提供の、定番の五家宝24本入りを、正解者の中から抽選で20人に提供します。所在地: 妻沼1744 電話: 048-588-0547

市報クイズでは、プレゼントを提供していただける商店・企業等を募集しています。詳しくは、広報広聴課 ☎内線212までお問合せください。

夢追人

行動すれば、夢は開く

(ミュージシャン「ザ・ビートモーターズ」)

秋葉正志さん (肥塚)
鹿野隆広さん (原島)



ボーカル・ギターの秋葉さん

熊谷で培った音楽

子どもの頃は、外遊びが好きな活発な子でしたが、中学生になり部屋にこもりがちになったことで、色々な音楽を聴き、興味を持ち始めました。高校生でバンドを組み始めてからは、音楽にのめり込んでいくうちに、バンド仲間が増え、キーボードをやっていた鹿野に出会いました。その頃は、僕がギター、鹿野がキーボードでバンドを組んでいたんですよ。当時は、商工会館やさくらめいとなどでライブをして、バンドの腕を磨きました。(秋葉)

ザ・ビートモーターズの結成から現在まで

「ザ・ビートモーターズ」は、大学で知り合った仲間が始めました。僕は、大学からドラムを始め、たので、バンド結成と共にドラムの技術も成長した感じがします。(鹿野)



ドラムの鹿野さん

自分が作詞・作曲をしているのですが、熊谷に帰り散歩するときなど、いい曲が浮かんできますね。自分が作った曲がメンバーの手によって完成する時は、とても充実した気持ちになります。デビューして4年が経ち、自分がこの段階にいるのかなんとなくわかった気がします。今後も、着実に進んでいきたいです。今は、主に東京で活動していますが、熊谷での活動を増やしていきたいですね。(秋葉)

行動しなければ始まらない

今は、欲しい情報が簡単に得られる時代なので、何

がいいものかをわかる人が増えたと思うのですが、実際に移す人が少なくなっている気がするんです。情報が溢れている分、先が見えて自分にストンプをかけてしまいがちですが、本当にどうかよりも、本気かどうか重要だと思っんです。こんな世の中だからこそ自分から動き、自分にとっての幸せを探せればいいですね。

来年、新しいアルバムが出ます。自分たちの作った曲が、普段の生活に何気なく溶け込んでいっているようになったらうれしいです。ぜひ、皆さんにも聞いていただけたらありがたいです。

「ザ・ビートモーターズ」のホームページ
<http://www.thebeatmotors.com/>

来て!見て!知って!文化財 貴惣門

響き合う彫刻と重厚なる建築 熊谷市妻沼1627

貴惣門は妻沼聖天山の参道の正門として建てられた重厚な八脚門であり、梁間5.2m、桁行9.2m、棟高13.3mの規模を誇る国指定重要文化財の建造物です。構造の中で特徴的なのは、側面(妻側)に破風を三つ重ねた類例の少ない特異な形式を有していることです。屋根には瓦棒銅板葺が用いられています。

貴惣門の建立は、歓喜院聖天堂の木工棟梁であった林兵庫正清が、寛保2年(1742)に利根川大洪水の復旧工事のために妻沼を訪ねた周防国岩国吉川藩(現在の山口県)の作事棟梁であった長谷川重右衛門に対して設計を依頼したことに始まります。しかし、その当時は建設する余力が無く、約100年後の嘉永4年(1851)に、正清の子孫である林正道が棟梁となり設計より規模を大きくした上で竣工しました。彫刻は聖天堂に見るような極めて秀逸な技術を継承した上州花輪村(現在の群

馬県みどり市)の彫師、石原常八らが担当しました。

総檜造の建物全体には多様な技法を用いた細やかな彫刻が飾られ、江戸末期の造形技術の粋を感じることができます。聖天堂の建立以降の時代、社寺建築の彫刻に対する鮮やかな着色が控えられる傾向があり、それに代わり、より立体性や細密さを重視した彫刻技法へと進化を遂げました。貴惣門はその最高水準の代表例として全国的に高い評価を得ています。また、それぞれの彫刻には寄進者名が刻まれていることから、聖天堂と同様に民衆信仰に基づき建立された建造物であることが分かります。

◆江南文化財センター ☎048-536-5062



人口と世帯 平成25年11月1日現在(対前月比)
■人口 202,446人(-93) 男 100,905(-44) 女 101,541人(-49) ■世帯 82,877世帯(-13)
「市報くまがや」12月号は、72,400部作成し、広告料収入を差し引いた印刷・製本にかかる市の負担は、1部当たり14円です。「市報くまがや」は、再生紙を使用しています。

●発行日 平成25年12月1日 ●発行 熊谷市
●編集 広報広聴課 〒360-08601 熊谷市富町二丁目47番地1
TEL 048-524-1111(内線2006) FAX 048-520-2870

「市報くまがや」は、毎月1日(原則)に発行し、自治会を通してお届けします。また、市役所・行政センター・出張所・公民館・駅連絡所などでもお配りしています。インターネットでも市報くまがやをご覧いただけます。(URL) <http://www.city.kumagaya.lg.jp/>